



起伏の激しい地形での道路事業

R5東関道長野江地区改良工事

東関東自動車道水戸線(潮来～鉾田)は、常磐自動車道三郷JCTを起点とし、北関東自動車道茨城町JCTまでの延長143kmの高速自動車国道のうち、茨城県潮来市を起点に茨城県鉾田市に至る延長30.9kmの道路である。この路線は、首都圏と茨城県北部を結ぶ重要な交通インフラとして位置づけられており、地域経済の活性化や物流の効率化に大きく寄与することが期待されている。

本工事は、潮来ICと鉾田ICの中間部に令和8年開業予定の行方ICから北に1.3km離れた区間で道路土工を行った工事である。



擁壁工施工状況



擁壁工完成写真



起点側完成写真

工事概要

工 事 名	R5東関道長野江地区改良工事
工事場所	自)茨城県行方市両宿 至)茨城県行方市長野江
工 期	令和5年8月22日～令和7年3月17日
発 注 者	国土交通省 関東地方整備局 常総国道事務所
工事内容	道路土工(掘削55,100m ³ 、路体盛土12,200m ³ 、 法面整形工11,600m ²) 地盤改良工(浅層混合処理210m ³) 法面工(植生マット7,140m ² 、モルタル吹付900m ²) 擁壁工(帯鋼補強土壁工503m ²) 石・ブロック積(張)工1式、舗装工1式 排水構造物工1式、縁石工1式、踏掛版工1式 構造物撤去工1式、伐木工1式、仮設工1式



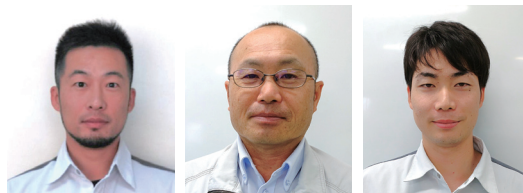
終点側完成写真

担当者の声

本工事は、切土と盛土を交互に行う起伏が激しい地形における土工事でした。特に工事の終点部は谷の様な地形であり、周辺には水田が広がっていたため、降雨による土砂の流出が懸念されました。このため、施工期間中には切土部に仮排水管を設置し、境界付近には大型土のうを設置することで、土砂流出防止措置を講じました。工事期間中には何度か台風の通過やゲリラ豪雨がありましたが、一度も場外への土砂流出を発生させることはありませんでした。

また、工事着手時点では、事業用地内の農道の付け替えが完了しておらず、農耕者の車両が事業用地内の一部を通行している状況でした。そのため、本線の切土作業と並行して、付け替え農道の整備が必要となりました。農耕者の通行に支障が出ないよう、農耕者との連絡を密に取りながら工事を進めました。

開通目標が設定されており、工事区間の一部を竣工前に引き渡す必要があるタイトな工程でしたが、後工程への配慮を忘れず、優先して完了させる工種を計画的に判断することで、無事に工事を完了することができました。



茨城本店 土木部

鈴木秀明 (所長)

竹本恒範

矢代敦也